

# 2025年度 すくわくプログラム実践記録

園名：おうち保育園おおいまち

## 保育理念

わたしたち保育園は、みんなの未来をつくることに自ら参加し、貢献し、そして楽しむ心を育みます。

## 保育目標



### 共感性

自分の気持ちを大切にし  
他者の気持ちも大切にする  
こども



### 内発性

自らの内なる声聴き  
主体的に動くこども



### 創造性

自由に考え  
創造するこども

## シチズンシップ保育5つの基本



## 1, 活動のテーマ

<テーマ（こどもたちの興味・関心を深める）>

「さわる」（触覚）

<テーマの設定理由（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）>

0～2歳児の子どもたちは「さわる」ことで様々なものに興味を抱き、学びの種を生み出す。知識を得、言葉の獲得、表現方法の発達を観察するため

※昨年度「深海」をテーマにしたが、0歳、1歳の活動の幅がやや狭かったように感じた。乳児期における感覚の発達の中でも「さわる」ことによる成長はかなり重要と捉えた。

## 2, 活動スケジュール

- ・ 日々の活動の中で子どもたちが「さわる」ものに対して、どのような反応があるか、そのことからどんなふうに学んでいくかを観察していく。
- ・ 日々の戸外活動の中では主に自然物を、食育活動の中、行事の中で様々なものに触れ個々の発達を追う。
- ・ 感覚過敏児についても、他児との違いを認めながらも、その子なりの発達を観察していく。

【実践記録】

<p>日付</p>	<p>2025/4～</p>
<p>「問い」 ・テーマに関するこどもたちの考えや、聞き出すための問い</p>	<p>戸外活動中で出会う、自然物（主に植物）にふれる。 特に花、葉は1年を通して色味や手触りが違う点も伝えながら子どもの興味を引き出す。種類の名前なども</p>
<p>環境のデザイン *素材や使用する道具、環境設定</p>	<p>戸外活動で行く公園、道中の植物（花、葉など）</p>
<p>探究活動 ・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり等。</p>	<p>目についた花や葉に積極的にふれる様子が見られる。「何色かな?」「ざらざらしてる?」などの感覚のオノマトペなどもとりまぜ問う。発語がまだの0歳児が黙々と触っている間はあまり質問や声かけはせずに集中して観察できるよう見守る。2歳児は「はっばがたくさん」と量なども表現。季節の花を見て「あじさいっていうんだよ」など声をかける。</p>
<p>活動の様子（写真・映像） ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真、こどもの作品など（公開OKのもの2枚以上）</p>	
<p>振り返り ・活動を通してきづいたこと、こどものブーム ・夢中になっていること ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り</p>	<p>その日だけではなく、通年の活動になる。 花や葉、木、実などに触れ興味を示す。植物から色を学ぶことも多く、「ちゅーりっぷ、あか!」などから「あじさいはむらさきいろだね」と色名もだんだん増えてくる。 保育者も様々な花が咲いている場所を見つけて散歩先に選び、クラス名が花名ということもあり「さくら組さんのさくら、ピンクだね」「ゆりぐみさんのゆりだよ」「ばら組さんのばら、〇〇くんの好きな黄色だね」と様々な声かけで興味を深めていった。 「さわる」ことに対して積極的な反面、民家や私有地で育てている花を摘もうとしたりする場面も何度かあった。「おやくそく」として「咲いているお花はやさしくさわろうね、つんつんってするだけだよ」とルールを伝えていくことも必要だと感じた。</p>

<p>日付</p>	<p>2025/ 5 /23</p>
<p>「問い」 ・テーマに関するこどもたちの考えや、聞き出すための問い</p>	<p>「土」にさわってみよう。ここで何ができるのかな？</p>
<p>環境のデザイン *素材や使用する道具、環境設定</p>	<p>栽培用土。野菜苗、野菜栽培用植木鉢 栽培用スコップ、霧吹きなど</p>
<p>探究活動</p>	<p>土にふれる。公園の砂場でさわる「砂」ではなく、野菜や果物が育つための場所を作る。</p>
<p>・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり 等。</p>	<p>砂場の砂は平気な児でも、「土」に手をつっこむのに躊躇する場面もあった。それでも保育者が土の中に手を入れたり、中に苗を入れる様子を観察するうちに、みずからスコップなどを持って掘ろうとしたり、そのまま手を入れてみたりする様子があった。 砂とは違った土の感触を表現する言葉はあまり聞かれなかったものの「冷たい」と言ったり、ぎゅっと固めてみたりする場面もあった。</p>
<p>活動の様子（写真・映像） ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真、こどもの作品など（公開OKのもの2枚以上）</p>	
<p>振り返り ・活動を通してきづいたこと、こどものブーム ・夢中になっていること ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り</p>	<p>・躊躇なく手で触れたり、掘ろうとしないのは「汚れる」感覚に敏感なのかもしれないと感じた。普段の生活ではつい汚れることを気にして声がけをしてしまうことがあるのかもしれない。 絵本（『くださものさん』『やさいさん』）を用いて普段食べている野菜や果物が育つのが「土壌」であることを伝えた。 秋には芋掘り体験ができるような活動を考えていきたい。 （昨年度、さつまいもをプランターに埋めて、掘り出す体験をした）</p>

日付	2025/4月～通年/氷は夏期
「問い」 ・テーマに関するこどもたちの考えや、聞き出すための問い	「シャボン玉」「氷」にさわってみよう。 ～さわると形がなくなってしまうもの、かわってしまうもの～
環境のデザイン *素材や使用する道具、環境設定	シャボン玉液 氷 予め、絵の具水を凍らせて、氷クレヨンを作成
探究活動	身近な遊びの中で「触れると姿がなくなってしまうもの」「形をかえるもの」に触れたときの様子を観察
・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり 等。	☆シャボン玉・・・戸外活動時ではよく遊ぶものの一つなので、追いかけてパチンと手で叩いたりしているので特に2歳児は「そういうもの」の認識は高い。消えたときに「なくなったね！」などの声かけをしたり、『シャボン玉』を歌う ☆氷・・・「ちべたい(つめたい)」と感覚を伝える。おえかきをするものとして取り組んでいるのに普通のクレヨンとの違いに不思議そうにする様子。 溶けて(えのぐ)水になり手が濡れることが不思議そうな表情を見せる。 水遊びでも氷を出して「つめたくて固いもの」の感覚を得た。
活動の様子(写真・映像) ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真、こどもの作品など(公開OKのもの2枚以上)	 <p>(※水遊び中の写真は公表なし)</p>
振り返り ・活動を通して気づいたこと、こどものブーム ・夢中になっていること ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シャボン玉の歌は遊び中はよく歌うようにしており「こわれて消えた」という歌詞のイメージで「消えたね！」と声をかけるとさらに追いかけて消そうとする様子があった。が、触ってみると手に残るちょっとした不快感を感じる児もいた。(ややべたつくなど)</li> <li>・氷は普段はそのまま食べることもまだない年齢なので暑い季節にさわると心地よさを感じる児も多い。また、「氷クレヨンだよ」と手渡すと「クレヨンだからお絵かき」という意識もあるので描こうとするがクレヨンとは違う描き心地やだんだん溶けて手が濡れてくることに「あれ？」と手を見つめる様子があった。状態が変わるものを「さわる」ときにフォーカスするのも面白いと感じた。</li> </ul>

<p>日付</p>	<p>2025/4月～通年</p>
<p>「問い」 ・テーマに関するこどもたちの考えや、聞き出すための問い</p>	<p>「絵の具」にさわってみよう。 ～どんなふうを感じるか～</p>
<p>環境のデザイン *素材や使用する道具、環境設定</p>	<p>絵の具、模造紙など</p>
<p>探究活動</p>	<p>手形をとるときなど、絵の具に触れたことがない子どもはいないが、全身につけて表現すること、(筆で塗ってもらうではなく)好きな色を自身で選び、指でさわって表現するなどしてみる。 ひんやりした感触に違和感を感じる子もいれば、それほど感じずに色々な絵の具をつけようとする姿も見られる。 絵の具の感触、使い方、色の認識などを学んでいく</p>
<p>・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり 等。</p>	<p>普段、園児が絵の具に触れるのはお絵かきの場面ではなく、手形や足形をとるときが多い。お絵かきの手段ではない場面で自ら積極的にさわろうとする子、たくさん手についたものを「なんだろう、この感触は」というように不思議そうに見つめる子など様々。「〇〇ちゃんは何色が好きかな」「えのぐは冷たいね」「とろとろにするよー」などと声をかける。</p>
<p>活動の様子(写真・映像) ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真、こどもの作品など(公開OKのもの2枚以上)</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>(※ボディペインティングはおむつのみの状態のため写真掲載はなし。)</p>
<p>振り返り ・活動を通してきづいたこと、こどものブーム ・夢中になっていること ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り</p>	<p>「土にさわる」ときと共通だが、無意識で「汚れてしまう」という声かけをしてきたかもしれない。手が汚れることを厭う児にとっては、絵の具に触れたときに不快感や不安感の方が先にたち、自由な表現、色彩を楽しむまでに時間がかかる傾向がある。 絵の具をさわる頻度をあげて、指や体全体を使って子どもたちが自由に表現できる機会を増やしたい。</p>

<p>日付</p>	<p>2024/4～通年</p>
<p>「問い」 ・テーマに関するこどもたちの考えや、聞き出すための問い</p>	<p>「命あるもの」特に有機物（動物、虫、魚など）にさわる。時には動いているものもあり、それぞれ自分たちと同じ「生きている」ということを実感する。</p>
<p>環境のデザイン *素材や使用する道具、環境設定</p>	<p>戸外活動場所、道中。水族館、動物園など</p>
<p>探究活動 ・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり 等。</p>	<p>戸外活動で常時通る道にいる亀、壁で見た小さな虫、バギーにいたダンゴムシ、散歩中の犬、窓際にいる猫、運河にいる魚、民家の庭にいる鯉・・・、見つけるとすぐにさわろうとする児もいれば、動く様子に驚いているのか、声をかけても怖がる様子を見せる子、様々。「小さいね」「何食べてるのかな」などを聞きながら興味を引き出す。 当初は怖がっていた児も他児がさわっていたり、保育者が関連した絵本を選定し読み聞かせをするなどで次第にさわれるようになっていった。</p>
<p>活動の様子（写真・映像） ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真、こどもの作品など（公開OKのもの2枚以上）</p>	
<p>振り返り ・活動を通して気づいたこと、こどものブーム ・夢中になっていること ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り</p>	<p>児の「生命体」への興味は非常に大きいですが、自分とは違う動き、色、形から恐怖心も大きい場合がある。 犬や猫は平気だが虫は苦手、ということも多い。保育者自身も苦手であっても、あまり強くその点を出さずにフラットに子どもに声をかけることを心がけた。生き物の大小、種類、名前などを伝えたり、図鑑や絵本を活用して生態を探求したり、擬人化されたものを読み聞かせするなど「生き物」への興味が深まるようにした。昨年度、海の生き物の探求をしたことも利用して図鑑を眺める児も複数いた。</p>

日付	2025/5月～
「問い」 ・テーマに関するこどもたちの考えや、聞き出すための問い	「くだもの」ってどんな感じがするかな？
環境のデザイン *素材や使用する道具、環境設定	子どもたちにとって身近な果物。主に給食でよく出るもの。いちご、オレンジ、すいか、みかんなど
探究活動	そのものをさわってみる（まるごと、切ったもの）、匂いをかぐ食べる
・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり等。	絵本（『くだもの』）やカードを用いて名前を確認したり、手遊びで導入。身近なもの、好物も多いので積極的にさわろうとする。果物が苦手な児もいるが、さわることには積極的で「べたべた」「(皮が)ざらざら」などの感触を言葉にする児も多かった。給食ではカットされたものがでてくることが多いので丸ごとのすいかを「おっきい(大きい)」と大きさを表現したり、匂いをかいでも「？」と不思議そうな様子も見られた。また、手がべたつくことを厭う児も見られる。保育者がナイフを用いてカットする様子を興味深そうにみつめ、自分が知っている状態を見て「オレンジ！」と発語する児もいる。好きないちごからジャムになる様子も紹介し、おやつで食す。
活動の様子（写真・映像） ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真、こどもの作品など（公開OKのもの2枚以上）	
振り返り ・活動を通してきづいたこと、こどものブーム ・夢中になっていること ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り	・給食や自宅での食事の中で「くだもの」の存在は児にとって非常に身近なもの。絵本や手遊びなどでテーマにも多くなっているが、意外にそのものの実物をさわったことがない児も多かった。自分の顔よりも大きなスイカに目を見開いていたり、柑橘類の中身の水分と糖分の多さで手がべたつくことに不快感を表したり、反応が様々だった。「おいしいね」はもちろんだが、手をふりながら「(汁が) ついたー！ふいてくださーい」などの感想もあり子によって発する言葉の多様さを感じた。いちごをさわったとき「いちごさんはどんなお洋服着てる？」と聞くと「つぶつぶ！」と感じたままを言葉にできる様子も見られた。「くだものさん」(tuperatupera)で果物が成る様子に興味を持つ児もいた。

<p>日付</p>	<p>2025/7/7 (七夕行事)</p>
<p>「問い」 ・テーマに関するこどもたちの考えや、聞き出すための問い</p>	<p>絵本や歌ででてきた「笹」って何？ パンダさんのごはんにもなるって知ってる？</p>
<p>環境のデザイン *素材や使用する道具、環境設定</p>	<p>笹、絵本（七夕関連、パンダ体操）</p>
<p>探究活動</p>	<p>6月から歌っている「七夕」の歌にでてくる笹ってどんなもの？実物を見て、さわってみよう。 どんな感触？どんな形？においはある？</p>
<p>・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり等。</p>	<p>行事そのものを楽しむ中で、「笹って何かな？」の問いに「たなばたー」と応える児。 実際にさわってみると少し日がたってしまっていてしぼんでいた見た目もあるのか「？はっぱ・・・」と葉であることの認識はあった様子。「笹のはっぱはどう？」と聞くと「さらさらー」と歌の歌詞の中の言葉で表現する児も。</p>
<p>活動の様子（写真・映像） ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真、こどもの作品など（公開OKのもの2枚以上）</p>	
<p>振り返り ・活動を通して気づいたこと、こどものブーム ・夢中になっていること ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り</p>	<p>造花的な笹は販売もされていることは多いが、実際の笹をさわることはあまりない機会でのどのような反応か観察した。 歌や絵本と関連づけている2歳児、「ふーん」というような様子の0歳児など。 購入後2～3日たって葉が縮んでしまったので本来の大きさではなかったが「細い」を「小さい」と表現する児もいた。 歌と関連づけて「さらさらー」と表現する児がいたが、感触とは違った関連付けだと感じた。</p>

<p>日付</p>	<p>2025/9</p>
<p>「問い」 ・テーマに関するこどもたちの考えや、聞き出すための問い</p>	<p>寒天って何？どんな感触？</p>
<p>環境のデザイン *素材や使用する道具、環境設定</p>	<p>寒天、絵の具</p>
<p>探究活動 ・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり 等。</p>	<p>・最初は「なにこれ？」という様子でおそろおそろさわる児、作成中から積極的にさわろうとする児様々。 好きな色のものから触ったり、保育者が渡さないとさわらない児などいたがむにゅっと潰したり、つんつんしたり。 保育者が「ぶるぶるー」「つんつんしてみて」「むにむにだね」などと表現すると、それを真似て話したりしている。 2回目以降はその言葉を覚えており「むにむにー」「ゼリー」「ぶるぶる」などと表現する児も複数いた。 給食で寒天ゼリーが出ると「一緒にやったね」とコミュニケーションする様子もあった。</p>
<p>活動の様子（写真・映像） ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真、こどもの作品など（公開OKのもの2枚以上）</p>	
<p>振り返り ・活動を通してきづいたこと、こどものブーム ・夢中になっていること ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り</p>	<p>・代表的な感触あそびなので、室内あそびにしばしば取り入れてはいるものの、子どもの「触覚」にフォーカスした観察はあまりしたことがなかったので新鮮な思いもあった。 「ぶるぶる」「むにむに」のように保育者が発した言葉を覚えており、それを表現する場面も多いが、どんな感触かなを確かめている児はただ黙ってそのものに集中していることも多い。 ・給食でゼリーが出るとこの活動を思い起こすことができる様子もある。 ・暑さの中で「何して遊ぶ？」と聞くと「ゼリーで遊ぶ」など「かんでん」はでてこなくても、感触で覚えている言葉を選択しているのだと感じる。</p>

<p>日付</p>	<p>2025/9 (通年) ~</p>
<p>「問い」 ・テーマに関するこどもたちの考えや、聞き出すための問い</p>	<p>粘土って何？どんな感触？</p>
<p>環境のデザイン *素材や使用する道具、環境設定</p>	<p>小麦粉粘土、油粘土、粘土用玩具</p>
<p>探究活動 ・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり 等。</p>	<p>作成段階から参加。小麦粉（粉の状態）を「さわる」ことも体験。この状態が粘土になるのをじっと観察していた。保育者が「これが粘土になるよ」「パンにもなるよ」など声かけをした。 できあがった小麦粉粘土をつんつんと恐る恐るさわる様子が見られる</p>
<p>活動の様子（写真・映像） ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真、こどもの作品など（公開OKのもの2枚以上）</p>	
<p>振り返り ・活動を通して気づいたこと、こどものブーム ・夢中になっていること ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り</p>	<p>・小麦粉粘土・・・感触遊びの代表的なものではあるが、自園での今年度の取組はあまりなかったので「これはなんだろう」という表情だった。が、水、油を足して粘土ができあがるとムニムニとさわったり、ちぎったりして感触を楽しんでいた。「ぎゅっとしてごらん」と声をかけると積極的にさわる様子が見られたのでその後も夕方の活動で頻繁に遊ぶことができた。</p> <p>・油粘土・・・</p>

<p>日付</p>	<p>2025/11 (通年)</p>
<p>「問い」 ・テーマに関するこどもたちの考えや、聞き出すための問い</p>	<p>「おはながみ」ってなあに？</p>
<p>環境のデザイン *素材や使用する道具、環境設定</p>	<p>花紙</p>
<p>探究活動 ・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり 等。</p>	<p>日々の生活の中で「紙」をさわる機会が多い。画用紙、折り紙、模造紙、新聞紙など。 今回は「花紙（おはながみと呼んでいる）」を使用して、クリスマス制作を通してくしゃくしゃの感触を楽しみ、自由にさわる</p>
<p>活動の様子（写真・映像） ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真、こどもの作品など（公開OKのもの2枚以上）</p>	
<p>振り返り ・活動を通して気づいたこと、こどものブーム ・夢中になっていること ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り</p>	<p>新聞紙などを破ったりくしゃくしゃにしたりという活動はすでに経験していたが、おはながみは自らさわったり自由に遊ぶことはあまりなかった。それでも、感触はそこまで不快感があるものではないので、自由にくしゃくしゃしたり、折ったりする様子が見られた。袋に詰める作業まで保育者の見本を見ながら「同じようにする」行動が見られる。 0歳児はくしゃくしゃにして次々に違う色のものに手を出しながら楽しむ様子が見られた。</p>

<p>日付</p>	<p>2025/12/22</p>
<p>「問い」 ・テーマに関するこどもたちの考えや、聞き出すための問い</p>	<p>「ゆずゆ」ってなあに？</p>
<p>環境のデザイン *素材や使用する道具、環境設定</p>	<p>ゆず、お湯、容器、洗面器、</p>
<p>探究活動 ・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり 等。</p>	<p>・「ゆず湯」を実施する家庭は年々減っているような気がする。給食でかぼちゃのいとこ煮が出たこともあり、季節の行事の紹介をしながら「ゆず湯」=あったかい、いい香り、など声をかける ・柑橘類にも色々な種類があることを知る。よく見る「みかん」のお友だちだよ、と「レモン」や「不知火」「ゆず」「すだち」など大きさや色の違いを写真を通して見せたり実際に触ったりする。</p>
<p>活動の様子（写真・映像） ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真、こどもの作品など（公開OKのもの2枚以上）</p>	
<p>振り返り ・活動を通してきづいたこと、こどものブーム ・夢中になっていること ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り</p>	<p>最初はそのままの「柚子」を見せると「みかんー」と身近な柑橘の名前を発する子どもが多かったが「みかんじゃないよ」という2歳児が1名いた。「本当はお風呂の中に浮かべるんだよ」と湯船にゆずが浮かぶ画像を見せたが不思議そうな表情を浮かべる園児がほとんどだった。容器のお湯を入れ、皮を浮かべると（0-2歳児が誤って口にしまった場合を考慮し、皮のみとした）そうっと手を入れる子、興味津津で皮をさわってみようとする様子が見られた。「みかんの仲間の皮を入れると、身体がホカホカにあったまって寒い冬でも元気で過ごせるんだよ」と話すと「ほかほかー！！」と保育者の発したオノマトペを繰り返す園児が複数いた。</p> <p>実際に触ってみることが苦手な園児も最初は見ているだけだったが「おててをお風呂に入れてあげたら？」と声をかけるとおそるおそる手を入れて、「みかんにさわってみる？」という皮をつつくように触れていた。</p> <p>身の部分が入ったら口にするのではないかな、と思ったが「食べるみかんじゃないんだよ」と伝えてもよかったかもしれない。</p>

<p>日付</p>	<p>2025/12/10</p>
<p>「問い」 ・テーマに関するこどもたちの考えや、聞き出すための問い</p>	<p>「ざくろ」って知ってる？</p>
<p>環境のデザイン *素材や使用する道具、環境設定</p>	<p>ざくろ</p>
<p>探究活動 ・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり 等。</p>	<p>「これなあに？」と2歳児が公園内に落ちていた実を見つけ「保育園で調べてみよう！」と持ち帰った。 これまで小さな「実」や「どんぐり」は子どもたちの身近にあったが、ざくろはそのまま落ちているところは知っていても中を除いたことはあまりなかった。知らないものを絵本や図鑑で「調べる」という作業にもチャレンジしている。</p>
<p>活動の様子（写真・映像） ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真、こどもの作品など（公開OKのもの2枚以上）</p>	
<p>振り返り ・活動を通してきづいたこと、こどものブーム ・夢中になっていること ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り</p>	<p>中を割ると「うわあー」とびっくりと興味の入り混じる反応が見られる。どんぐりや、南天の実などはこの季節通常の戸外活動で拾ったりすることは多いが、今回は実際に拾う→保育者から写真や図鑑で「ざくろ」という名前を知る→中身を見るところの中で「これはなんだろう」→「絵本や図鑑、インターネットを利用して調べることができる」という気づきに繋がる活動となった。（1歳、2歳児）。 「つぶつぶいっぱいだねえ」「あかー」など主に0歳児は見た目についての言葉が多く発せられていた。 においをかいでみようとしたり、最初は「さわってみる？」と伝えても顔をそむけていた児もいたが、友だちが積極的に触るのを見て恐る恐るつつきはじめて外側の様子から想像したよりもつぶつぶのリアル感に驚く様子もあった。 保育者も毎日の戸外活動で「落ちている自然物」が風景にもなっており「これは何？」の問いに対しても同じような応答になってしまいがちだけど、その何気ない問いをもっと掘り下げられるようにしていきたいと思った。</p>

<p>日付</p>	<p>2025/2/5</p>
<p>「問い」 ・テーマに関するこどもたちの考えや、聞き出すための問い</p>	<p>「りんごの手遊び」から りんごをさわろう♪</p>
<p>環境のデザイン *素材や使用する道具、環境設定</p>	<p>りんご（青、赤） 「くだもの」（平山和子）の絵本 【導入】「くだもの」の手遊び</p>
<p>探究活動 ・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり等。</p>	<p>園児が大好きな「りんご」の手遊び（他の果物も出てくるものではあるが）の後、ある2歳児が「りんごおいしいねえ」と言葉を発したことから「りんご食べたいねえ」と応答する子どもたち。りんごの色は赤だけではないことを伝えつつ、いつもはきった状態なので、そのものの姿のままさわってみる。</p>
<p>活動の様子（写真・映像） ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真、こどもの作品など（公開OKのもの2枚以上）</p>	
<p>振り返り ・活動を通して気づいたこと、こどものブーム ・夢中になっていること ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り</p>	<p>この次期の子どもたちは普段歌う歌、手遊び、絵本からもの名前などを吸収することが非常に多い。 今回、朝の会なので行っている「りんご、りんご、りんごのほっぺ♪～」から始まる果物の手遊びを多くの子どもたちが好んでおり、給食でりんごが出ると、自然に口ずさんだりする子どももいる。この実施日のしばらく前にやはり手遊びをしていたところ、ふと「りんごおいしいねえ」と口にする2歳児がいた。その手遊びで一番身近な果物は「りんご」であると推察されるが、給食ではやわらかく煮たもの、または薄くスライスしたものしか口にしておらず、案外そのままの状態で手にしたりおいをかいたりすることは少ないのかも？と赤りんごと青りんごを用意してみた。この日の連絡帳でも「家庭では皮むきが必要なりんごはあまり買いません」という家庭が複数あり、実践して楽しめたのではないかと感じた。 保育者が「りんごは何色？」と問いかけると「あかー」と自然に答える子が多かったので「あれ～？このりんごは緑だねえ？なんでかなあ？」と聞くと「青りんごだよ！」と答える2歳児がいた。「あれ～？緑色なのに、どうして青りんごなんだろうねえ？」と問うたが、そこはまだ少し難しかったようだ。</p>

<p>日付</p>	<p>2025/2/24</p>
<p>「問い」 ・テーマに関するこどもたちの考えや、聞き出すための問い</p>	<p>おにぎりを作って食べよう！</p>
<p>環境のデザイン *素材や使用する道具、環境設定</p>	<p>炊飯後のごはん、子ども用ふりかけ 皿、ラップ</p>
<p>探究活動 ・活動中のこどもの姿、声、こども同士やスタッフとの関わり 等。</p>	<p>おにぎりの絵本「おにぎり」(平山英三) 導入 3日に卒園児の卒園遠足があり、昼食がお弁当だった。その際に調理されたおにぎりを手でつかんで食べる様子から、実際に握ってみよう、と食育と絡めた実践活動。 園でよく読まれる絵本を導入とする。 ラップを使用し、子どもが好む無添加のふりかけを使用し「自分で作ったおにぎり」を実際に喫食。</p>
<p>活動の様子(写真・映像) ・こどもが夢中で取り組んでいる姿や、学びの瞬間をとらえた写真、こどもの作品など(公開OKのもの2枚以上)</p>	
<p>振り返り ・活動を通して気づいたこと、こどものブーム ・夢中になっていること ・こどもの思いや学びの考察 ・保育者の振り返り</p>	<p>2/3に実施した卒園遠足時のお弁当では、全園児がお弁当を喫食し、食べる前に「おにぎり」の絵本を読んでいた。また普段から家庭での朝食や、園でのおやつに「おにぎり」が出る事が多く、子どもたちにとっては非常に親しみのあるものと言える。米粒のベタベタした感じや、冷めたごはんを好まない園児もいた中、興味深そうにつまんでみたり、保育者がラップを使って握る様子をじっとみつめて楽しそうに取り組む様子も見られた。</p> <p>元々、手に食べ物がつくことを非常に嫌がる児(おそらく発達特性によるもの)にとっても実践しやすくできるよう、児の好むふりかけを用いる、スタッフとマンツーマンで取り組むなど配慮したところ、一緒にラップの上から握ったり、自らふりかけをかけながら食べている様子もあり成長を感じた。</p> <p>「ベタベタするね」「いいにおいだね」などの声かけをしたり、「どんな味？」と質問し、「おいしい!」「〇〇ちゃんのおにぎりー」「おおきい!」「ぺたぺたするー」など、子どもの素直な感想を聞くことができた。</p> <p>振るタイプの幼児用おにぎり製造グッズ?も検討したが、実際に「にぎる(さわる)」ことの実践にして、子どもたちの楽しい実践となったようだ。</p>